

学校だより



# 稲荷台

令和4年10月31日

11月号

横浜市立稲荷台小学校

## 心を一つに、ベストをつくした運動会

校長 中山 正之

10月22日、涼しく過ごしやすい気候のもと、運動会が行われました。今年度のテーマは「心を一つに ベストをつくせ いいないいな稲荷台 101」。今回のプログラムはラジオ体操から応援団のパフォーマンス、全員が出場する徒競走、低中高ブロック別の団体演技、そして代表選手による低学年・高学年リレーと続きました。この2年間、実施できなかった種目が戻りつつあり、以前の運動会の骨格がかなり戻ってきました。体育の学習で学んだ内容を発表することを主要なねらいとしたため、紅白対抗の形はとらず、得点種目も設けませんでした。ですから、徒競走は個人戦、リレーはチーム対抗として行いました。応援団に関しては「運動会を盛り上げること」をねらいとして結成したので、紅白に分かれてはいましたが、児童全員にエールを送るという形にしました。ちなみに1組が白の衣装、2組が紅の衣装を身に着けていました。

各学年のプログラムを見ていて印象的だったのは、子ども達のはつらつとした動きと真剣な表情でした。徒競走で懸命に走る姿や団体演技の伸び伸びとした動きから、積み重ねてきた練習の成果を見てもらいたいという気持ちがしっかりと伝わってきました。当日ご参観された保護者の皆様にも、そうした気持ちがよく伝わったのではないかと思います。確かに紅白に分かれて勝負を競うという側面は、運動会を盛り上げる大切な要素の一つです。子ども達にとっても大きなモチベーションとなります。そのため、競い合う部分をなくすことは、運動会の魅力を減らしてしまうかもしれないという若干の心配もありましたが、それは無用でした。むしろ自分の力を最大限尽くし、良いパフォーマンスを見てもらいたいという子ども達の真剣な気持ちが集中力を高め、参観している人達により力強く伝わってくるのだと感じました。特に5年生と6年生は徒競走の練習の際に、トレイルランニングの世界選手権日本代表である横内佑太郎選手に走り方の指導を受け、良いフォームで走ることの大切さや楽しさを学んで臨んでいました。当日は教えてもらったことがしっかりと生かされていたはずで

このように今回の運動会は、本校の子ども達の成長した姿を見ていただく良い機会となりました。しかし、感染予防のため全ての保護者の方にご参観いただくことはできませんでした。皆様のご協力に感謝いたしますとともに、ご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。また、安全な開催に向けてPTA 役員の皆様にも大きなご支援をいただきました。こちら厚く御礼を申し上げます。来年度は、全ての保護者の方にご覧いただけることを心から願っています。

最後になりますが、9月にお願いをした前期教育活動評価では、全校の約80%の保護者の皆様よりご回答をいただくことができました。結果につきましては近日中にお知らせいたします。大変多くのご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後どうぞよろしくお願いいたします。